

平成 30 年度第 2 回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会 議 名 平成 30 年度第 2 回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 平成 31 年 3 月 26 日（火）午後 3 時 00 分～午後 4 時 30 分
3. 開催場所 木更津市役所朝日庁舎 会議室 E
4. 出席者 市史編集委員会委員 出席 8 名
杉山林継委員長、成田篤彦副委員長、石和田秀幸委員、川戸貴史委員、
實形裕介委員、島立理子委員、谷畑美帆委員、堀切由彦委員
教育委員会事務局 6 名
高澤茂夫教育長、岩埜伸二教育部長、秋元淳教育部次長、稲木章宏文化課長、
小高幸男主幹、寺原進主任主事

5. 議題及び公開又は非公開の別

- 議題 『木更津市史』刊行計画の見直しについて（公開）
- 報告 1 木更津市史編集部会の活動状況（公開）
- 報告 2 木更津市史編さん事業公開講座実施結果（公開）
- 報告 3 刊行物の発行状況及び予定（公開）

6. 傍聴人 なし

事務局（稲木文化課長）

定刻となりましたので、ただ今より本年度第 2 回目の木更津市史編集委員会を開会いたします。本日の進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日の市史編集委員会は、池田委員、石井委員から欠席の連絡がありましたのでご報告いたします。会議につきましては、附属機関設置条例第 6 条第 2 項の規定により成立しております。また、会議は公開で行いますのでご了承下さい。なお、本日の傍聴人はおりません。

はじめに、杉山委員長よりごあいさつをお願いいたします。

杉山委員長 ご多用のところ、お集まりいただきましてありがとうございます。年度末になってからのお話ですが、今日は刊行計画の見直しに関する協議と、その他の報告事項がありますので、よろしくお願いいたします。

事務局（稲木文化課長）

ありがとうございました。続きまして、高澤教育長よりごあいさつ申し上げます。

高澤教育長 皆さんこんにちは。ご多用の折、第 2 回市史編集委員会にご出席いただきあり

がとうございます。早いもので、30年度も年度末を迎えております。おかげさまで、市史編集委員会の皆様や、調査・研究に携わっている各市史編集部会の皆様のご協力により無事進んでおります。また、昨年12月22日に開催した公開講座は、政府が推進してまいりました「明治150年」関連施策の取り組みのひとつとして行い、多くの方々にお越しいただきました。その際には、実形委員や、市史編集部会の池田部会長には、講師として大変興味深い講演をしていただきましたこと、御礼申し上げます。

本日の議題は、前回の編集委員会において「木更津市史」の発刊と、刊行計画について協議いただいた結果を踏まえ、事務局が修正したものについて、あらためて協議いただきます。忌憚のないご意見を賜ればと存じます。

また、今年度の事業報告についても、事務局から報告させていただきます。

事務局（稲木文化課長）

それでは、会議に入る前に、資料確認をお願いいたします。

（資料確認）

これより、会議に入ります。議長は委員長が務めることとなっておりますので、杉山委員長をお願いいたします。

杉山委員長　それでは、議長を務めさせていただきます。本日の議題は「木更津市史刊行計画の見直しについて」ということで、これは前回の委員会で協議したことの関係議案であると思うので、事務局の説明をお願いします。

事務局（小高主幹）

本日の議題ですが、前回の編集委員会で「木更津市史」の発刊・刊行計画にかかわる協議結果を踏まえ、刊行計画表を修正しております。別紙資料をご覧ください。上段は前回の資料、下段は修正（案）で、刊行物の箇所のみ示しております。編さんにかかわる作業期間の見直しや、史料編の「古代編」「中世編」を分冊することとなったことを踏まえて記載しております。協議した以外では、刊行年度をわかりやすくしたいと考え、市史本編及び目録の刊行年度を「●」印で表示しております。また、前回の編集委員会で、実形委員から「年度ごとの刊行冊数が多い」という意見を踏まえ、一番下の刊行数については、年度中の刊行冊数を3冊に抑えるようにしております。

修正したことによる問題点は、刊行年度が木更津市史の基本構想で定めた市史編さんの事業期間の2030年を超えております。このほか、民俗部会長から「民俗調査報告書1」の刊行年度を、調査等の進捗状況から、2019年度から2020年度にしてほしいという申し出があったため、修正しております。このほか、Web

版「木更津市史」作成・公開に係る作業ですが、前回の編集委員会では、今年度から開始したいと提案しましたが、公開する資料の再検討と撮影準備等から従来どおり 2020 年度にしております。

以上についてご意見をいただき、この修正（案）でよろしければ市史基本構想の別表 4 を改正します。私からは、以上です。

杉山委員長 事務局からの説明が終わりましたが、基本的には年間の発行部数を最も多いときには 11 冊であったのを年間 3 冊にしたということですが、これについて一番の問題は行政側が基本的にこれで大丈夫かということです。つまり、いつまでに終わらなければいけないということがあれば問題になるかと思うのですが、その点は大丈夫ですか。市史編さん事業は非常に長い事業なので、途中で修正が加わることがあると思いますが、皆さんのほうではこの点についていかがでしょうか。説明の中で実形委員のお名前が出ていたので、実形委員から意見はありますか。

実形委員 単年度の刊行数について、一所懸命に考えたのだと思います。主に近世の部分を見させていただきましたが、近世の刊行をずらしたことで「史料編」を刊行した翌年に「通史編」が出るということになっていて、「通史編」の原稿執筆の大詰めのところと重なっているので、近世部会のほうで執筆をうまく進めていかなければならないだろうと思います。

杉山委員長 ありがとうございます。民俗の話も出たので、この計画について島立委員いかがでしょうか。

島立委員 民俗の立場から言うと、この計画で進めていただきたい。

杉山委員長 この計画のほうがいいということですね。

島立委員 はい。

杉山委員長 他の委員の方はいかがでしょうか。個人的には、こんなに（編さん事業）計画が長くなると、後輩に頼めばいいのかなと思っています。最初から長期計画だったのが更に長くなるということですが、いかがでしょうか。

意見がなければ、この計画（案）で事業を進め、途中で見直すことがあれば考えるということでもよろしいでしょうか。

成田副委員長 計画が早くなってもいいのでしょうか。

杉山委員長 基本的に準備が整っていればいいのではないのでしょうか。それでは、この計画（案）でもよろしいですか。

（出席委員了承）

杉山委員長 それでは、事務局はこの計画（案）を進めるようお願いします。

事務局（稲木文化課長）

承知しました。

杉山委員長 本日の議題は、以上です。次に、その他報告事項に入ります。報告事項について、事務局から報告を一つずつお願いします。

事務局（小高主幹）

今年度の木更津市史編集部会による活動状況について報告します。各専門部会長に作成してもらった平成30年4月～平成31年2月までの活動状況報告書を添付しております。各部会の調査活動は、概ね順調に進められているとの報告を受けており、懸案事項についても掲載してありますのであわせてご覧ください。なお、部会の設置状況ですが、8専門部会中7専門部会を立ち上げております。内訳は歴史系部会5、民俗・自然部会各1で、部会委員等として、53名の方にご協力いただいております。複数の部会を兼務している方を含めると60名です。私からは、以上です。

杉山委員長 編集委員会委員の中にも、専門部会に所属している方もおりますので、それぞれ所属する部会の活動報告を見て質問してください。古代部会に所属している石和田委員いかがですか。

石和田委員 今年度は、「史料編（古代史）」の入稿原稿について検討を続けています。具体的には、掲載する史料をどのように取り扱うのかを検討しています。河名部会長は実証的な方法で進められており、特に正倉院文書の史料検討を丁寧に行っています。

杉山委員長 ありがとうございます。中世部会に川戸委員が所属していますが、川戸委員いかがですか。

川戸委員 報告のとおりで、今年度は史料調査を市内及び県内・外で行っています。来年度も同様な基礎作業になると思います。また、県外調査に出る場合、予算にかかわってくるので、計画を部会内で慎重に検討して事務局と十分に打合せながら進めたいと考えております。

杉山委員長 ありがとうございます。近世部会では實形委員いかがですか。

實形委員 近世部会は小関部会長を中心に千葉大学から多大な協力を得ながら進めています。現状では、旧保健相談センターの一室で作業を行い、史料も一時的に保管しているので、これからも借用史料を保管しながら作業を進めることとなります。ただ、懸案にも上がっているように、近世の場合、くずし字が読める人がいないと史料が扱えません。また、協力してもらえなくなったとき、ボランティアをお願いする場合も簡単には行かない。ちゃんと人材育成しなければいけません。読める人の確保をどうやっていくのかが問題になると思います。また、木更津市

には幕末期に 66 カ村あって、市史ですから落ちる場所がないよう網羅的に史料を発掘していくと思いますが、作業場所は確保されていてもキャパシティー（容量）があるので、その辺の兼ね合いも考えながら作業を進めるようになります。ただ、先ほども言ったように、「史料編」を本格的に編さんするとすると、読んだ史料を解説してもらわなければならないので、「史料編」の編さんが本格的になる前に筆耕員になってくれる人を 20～30 人確保する必要があります。基本的には 20 人いたほうがいい。作業場所に来ずとも自宅で作業してもらえばいいわけで、そうすると筆耕の予算をどうするのかという話にもなってきます。筆耕作業は、結構アナログなので、原稿用紙で書いてもらう。用紙も（市史編さん）専用の用紙を作成する。その他のことも含めて（「史料編」編さん）本格化する前に、また検討する必要があると思います。

杉山委員長 ありがとうございます。自宅で作業した成果品を提出してもらおう方法としか言えませんが、他の専門部会でも多少はあると思います。この辺を事務局として、今後どう考えていくのかということでしょうか。

民俗部会について、島立委員いかがですか。

島立委員 民俗部会は、現在、木更津・金田地区を中心に調査を行っています。木更津地区の調査報告書は、刊行年度を遅らせていただいたので、来年度、執筆に向けて進めていくところです。木更津地区は祭礼の調査が進んでいて、今後、生業や年中行事などについて調査します。金田地区は、そのあとに「民俗調査報告書」を刊行することになっていますので、調査を行っています。漁業に関する調査は大体終わっていますので、生業の中でも農業について調査を行っています。今後は、年中行事に関する調査を行っていこうということになっています。民俗部会は委員がかなりいるのですが、それぞれ多用のため中々調査に入れにくい。また専門分野のこともあるので、部会委員を増やしていただきたいのですが、中々そういった人材もいない現状です。その辺も考えていきたいところです。

杉山委員長 ありがとうございます。現地調査も多いでしょうが、皆さんもそれぞれご多用の中、やっていたかなければならないのかなと思います。

それでは、自然部会について成田副委員長いかがですか。

成田副委員長 自然部会は文献調査と現地調査を行っています。部会委員は、環境・地学・動物・植物分野に分かれ、環境分野は主に盤洲干潟周辺で底生生物の調査について概ね終了しています。地学分野は文献調査が行き届いているので、ほぼ調査は終了し原稿執筆に入っているところです。動物分野はおおよそのデータは集まっています。植物分野は県立中央博物館との合同調査を行い、ほぼ今年度で木更津市

域の植物メッシュ（分布）調査が終わる予定です。今後は、「自然編（資料編）」の編さんや、文献目録等の作成を進める予定です。

杉山委員長　ありがとうございます。今、古代・中世・近世・民俗・自然部会の様子を報告いただきました。残る考古部会と近現代部会について、事務局から説明してください。

事務局（小高主幹）

考古部会は、部会長含め部会委員の中で時代ごとに分担して進めていただいております。問題点は、考古の古代資料担当が決まっておりませんので、この部分の作業が止まっています。作業内容は、これまでの発掘調査報告書を見ながら資料収集・整理を行っています。また請西地区の区画整理事業にかかわる発掘調査を行っていましたが、その調査成果と現在の住宅地図を重ねたデジタルマッピング作業をしていただいております。石造物調査は、中世・近世・近現代部会に所属していた本間部会委員が行っていましたが、部会長会議で石造物を考古部会が取り扱うこととなりましたので、本間部会委員には考古部会のみ所属してもらって調査を行うこととなりました。

近現代部会は週 1～2 回木更津市内及び千葉県文書館等で史料調査を進めております。家文書の調査では、近世資料も所有する場合がありますので、近世部会と合同調査することがあります。家文書の調査は会議資料のとおりです。また懸案事項としては、木更津市が保管する行政文書の調査を早急に進めたいとの要望が上がっております。事務局としてもなるべく早く対応してまいりたいところです。

その他、市史調査協力員によるボランティア活動については、特に自然部会の巨木調査や近世部会の古文書翻刻作業などにご協力いただいております。現時点での登録者は 12 名で、協力員のほとんどは巨木調査に参加しており、今年度は 8 回調査を実施しております。また、中央大学鈴木俊幸教授、一橋大学若尾政希教授、木更津市との共同調査で、木更津図書館所蔵の和本を調べておりましたが、その調査も概ね終了しております。調査成果を、今年 5 月（11 日）に木更津図書館を会場に発表していただく予定です。詳細が決まり次第ご案内いたします。私からは、以上です。

杉山委員長　図書館の和本調査というのは、(本の) 時代は関係なく調査しているのですか。

事務局（小高主幹）

概ね江戸から明治時代の和本について調査しております。

杉山委員長　一応、各部会からの現状報告ができました。質問がありましたらお願いします。

谷畑委員　私は、考古（出土人骨）を専門として編集委員会委員に入っておりますが、編

集部会の作業についてまだお手伝いしておりません。来年度から諏訪谷横穴墓群（古墳時代）出土人骨の調査を行いたいと思いますので調査計画に加えていただけますか。

事務局（小高主幹）

承知いたしました。

杉山委員長 私からの質問ですが、かつての「木更津郷土誌」「木更津市史」「木更津市史富来田編」の時の調査資料というのは、かなり残っていますか。

事務局（小高主幹）

「木更津市史」の資料については、木更津図書館に印刷したときの版組みは残っていましたが、資料そのものは残っていませんでした。「富来田編」については、確認できておりません。

杉山委員長 確かに、かつての市史に関するものまで見ていくのかという問題もありますが、皆さんはどうでしょうか。

事務局（小高主幹）

市史関係ではありませんが、「君津郡誌」編さんにかかわる資料の一部が、家文書の調査を進めている中で発見されております。郡誌編さん担当者の書類が一緒に出てきております。

杉山委員長 わかりました。私なども「君津郡誌」を参考にしたことがあります。その他、質問はありますか。質問がなければ、次の報告事項の説明をお願いします。

事務局（小高主幹）

木更津市史編さん事業公開講座について報告します。昨年の2018年は、明治元年の1868年から数えて150年目ということで、政府主導のもと、自治体や民間団体における「明治150年」関連施策として、平成30年12月22日（土）に開催しました。題名は、「明治150年記念 木更津地域から見た明治」で、会場は木更津市民会館中ホール、入場者は、一般・来賓を含め133名でした。講師は、實形委員と市史編集部会（近現代）の池田部会長で、当日の資料をお手元に配っておりますのでご覧ください。なお、講演記録については、来年度の『公開講座記録集』で掲載する予定です。私からは、以上です。

杉山委員長 公開講座について、何か質問はありますか。講演された實形委員からはどうでしょうか。

實形委員 請西藩の林忠崇というと、木更津の歴史の中では魅力ある人物であったわけで、入場者も、そこそこ集まったと思います。このときは1時間しかなかったの知らない人への紹介程度の内容でした。恐らく、知っている人には物足らなかった

だろうと思います。林忠崇などについては、「史料編」「通史編」を編さんする中で、新しいお話ができればと思っています。

杉山委員長 ありがとうございます。意外と新しかったと思うのですが、林忠崇は、いつ亡くなったのでしょうか。

實形委員 昭和16(1941)年です。1月に亡くなり、その年の12月には日米開戦になっています。

杉山委員長 請西藩の林家というと、私は「猷兔」の話しか知りません。

實形委員 根岸地区が兔を納めていた場所です。(木更津には)色々な請西藩ゆかりの場所というものがあるので、おもしろいと思います。

杉山委員長 ありがとうございます。他に質問はないようなので、次の報告をお願いします。
事務局(小高主幹)

最後に、刊行物の発行状況及び予定について説明します。「木更津市史編さんだより」第3号は、昨年11月3日付けで発行しました。主な内容は、「明治150年」関連の記事と盤洲干潟について掲載しております。「木更津市史研究」第2号と、「公開講座記録集」29年度版ですが、まず、「市史研究」は、8人の方に執筆いただいております。歴史分野は研究論文4本、自然分野は研究論文1本、報告3本です。「公開講座記録集」は、昨年度、千葉大学との共催で開催した「暮らしから見つける木更津の文化資源」に関する講演録を掲載します。2冊とも、今月中に刊行します。私からは、以上です。

杉山委員長 刊行物の報告がありましたが、これについて質問がありましたらお願いします。こうした広報活動は大事なので、私も書かなければと思うのですが、筆が遅いのでまだ書けていません。委員の皆さんにもぜひご協力いただきたいと思います。ところで、刊行物の内容で意見というか、反論や投稿などはありますか。

事務局(小高主幹)

市の広報紙も含め、市史編さんに係る情報提供をお願いしておりますが、公開講座や刊行物をみて「うちにもある。」といった連絡をいただいております。それをもとに、事務局や各専門部会の方々に調査に行ってもらっています。たとえば、「市史編さんだより」第3号に掲載しております土蔵解体の調査についても、情報を寄せていただいたおかげで調査できたものです。

谷畑委員 「市史編さんだより」は、どこに行けばもらえますか。

事務局(小高主幹)

文化課窓口でございますし、市のホームページに1号から掲載しておりますので、ホームページからも印刷できます。

谷畑委員 わかりました。

杉山委員長 他にありますか。

實形委員 郷土博物館金のすずが来年度から2ヵ年間休館しますが、市史編さんには博物館の協力が非常に重要になってきます。休館している間、どのように協力してもらえるのかご検討いただきたいのですが。

堀切委員 平成31・32年度の2ヵ年にわたり、博物館の空調工事を実施する予定で、その間、博物館自体は休館します。ただ、職員は博物館に在籍しておりますので、連絡いただければ対応したいところです。また調査についても近現代部会から博物館所蔵資料の調査を行ってもらっておりますので、調査途中の資料を一時的に他の施設へ移動して継続することも検討しております。

杉山委員長 これは大きな問題ですから、事務局として他の施設を活用するということがどうですか。

事務局（小高主幹）

今年度7月から旧保健相談センターの一室を借りて、作業や借用した資料を保管しておりますので、施設管理部署と調整を図ります。

杉山委員長 せっかく（市史編さん事業は）動き出しているわけですから、対応をお願いします。その他、報告事項について質問はありますか。なければ、議事をこれで終了します。

事務局（稲木文化課長）

杉山委員長、議事進行ありがとうございました。以上を持ちまして、第2回木更津市史編集委員会を終了いたします。来年度の市史編集委員会ですが、編集委員の委嘱期間が本年6月30日までとなっておりますので、委嘱状交付式とあわせて7月に開催します。本日は、ありがとうございました。

平成31年3月26日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 杉山 林継